

令和4年度 伊保内高等学校教職員 働き方改革アクションプラン

～すべての教職員が働きがいを感じ、充実感のある職場～

伊保内高等学校では、「岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)」に基づき、以下の取組により、「学校における働き方改革」を推進します。

1 現状

- ・ 時間外在校等時間数(週末の部活動指導従事時間を含む)が、月45時間超の職員が全体の25%に及ぶ。年360時間超の職員は9名(64.3%)である。
- ・ 教職員定数の減少や地域連携事業等の担当者の業務が多くなり、業務の平準化が進んでいない。
- ・ ICT機器を導入して授業改善を目指しているが、一部の得意な教員による活用が多く、全教員にまで活用が進んでいない。

2 目指す姿

- ・ 意識的に時間外在校等時間の縮減に取り組み、学校教育目標達成に向けて職員間で温度差のない取り組みが実施されている。
- ・ 心身ともに健康であり、職員同士が協働による生き生きとした充実感のある職場
- ・ 在籍している生徒を全力でサポートする職場
- ・ ICT機器をうまく活用し、業務の削減に成功している職場

3 取組内容

○ 教職員の健康管理

- ・ 有給休暇及び振替休日取得率の向上を推進する。
- ・ 心身のリフレッシュを保ち、ライフワーク・バランスの実現に努める。
- ・ 学校閉庁日の前後を含めた連続休暇や記念日休暇の取得を推進し、健康維持・増進やコミュニケーションの円滑化に資するレクリエーションを実施する。
- ・ 管理職による面談や積極的な声掛けにより、相談しやすい環境を整え、傷病・疾病の早期発見・早期治療を推進。

○ 学校における業務改善の推進

- ・ 勤務状況確認シートの確認を含め年4回の管理職面談を通じ、年度途中での業務見直しと改善に取り組む。
- ・ 「か・えるの日」(毎週水曜日)の実施
- ・ 管理職が時間外在校等時間の上限に対応した意識喚起に取り組み、月半ばでの実績確認。
- ・ 部活動従事時間の軽減に向け、休養日の完全実施と練習内容の効率化や計画の見直しを検討します。

○ 学校及び教員が担う業務の明確化・適正化の推進

- ・ 学校関係者(CS・学校運営協議会等)と目指す学校像の共有化を図る。
- ・ 外部団体(地域みらい留学、伊高むらおこし会社、地域おこし協力隊等)との対応をマニュアル化する。
- ・ 地域連携業務に関して学校と九戸村の役割分担を明確にし、生徒の進路実現達成を目指す。

4 目標

- ・ 通年で時間外勤務100時間以上に該当する教職員→0人
- ・ 時間外在校等時間数(週末の部活動指導従事時間を含む)が月45時間超の職員が全体の6%以下
年360時間超の職員1.5人以下
- ・ 月に1回以上、有給休暇を取得する教職員→100%
- ・ 週1日以上部活動休業日設定率→100%
- ・ 健康診断所見ありの割合→2割減

令和4年5月31日 伊保内高等学校長 日野澤 明彦

(参考)「岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)」(抜粋)

【策定趣旨】

- 働き方改革の実現により、岩手の未来を担う大切な子どもたちに、質の高い教育の持続的提供につなげる。

【プランの期間】 令和3年度～令和5年度までの3カ年度

【プランの目標】

目標1 県立学校の教員の時間外在校等時間の縮減

- (1) 時間外在校等時間が月100時間以上の者をゼロにする。

- (2) 時間外在校等時間(週休日の部活動指導従事時間を除く。)が月45時間超、年360時間超の者を下記のとおり段階的に縮減する。

時間外 在校等時間	取組期間	
	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
月45時間超	令和2年度実績の 8割減	ゼロ
年360時間超		

目標2 業務への充実感や、健康面での安心感の向上

令和5年度において、アンケート調査に基づく肯定的実感が令和3年度の実施結果から向上することを目指す。